

令和4年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第2回部会長・副部会長会議を開催しました



○2月1日（水）に第2回部会長・副部会長会議をオンラインで開催しました。参加者は、部会長・副部会長8人と上越地域在宅医療推進センター長、事務局12人でした。

○今回の議題

- （1）各部会の3年間の活動報告及び今後の取組について
- （2）次期部会への提案
- （3）2/18の協議会と活動報告会について

◎上記の（1）と（2）について、関連があるため一緒に行いました。

各部会長から3年間の取組、評価、課題及び次期部会への提案まで説明をしていたが、事務局より次期部会提案や対人援助スキルアップ部会の名称変更など経緯について補足をした後、意見交換を行いました。

（1）（2）部会の主な報告事項

① 入退院時連携推進部会

〈取組評価〉

- ・円滑な入退院支援のためには、本人の思いや入院前の様子等が書かれた地域連携連絡票等の情報共有ツールが有効であることを再認識することができた。
- ・医療側と在宅側で自由に意見交換できる場を設けたことで、双方で欲しい情報が違う等の相互理解につながり、連携がとりやす

くくなった。

〈課題〉

- ・入退院時に必要な情報について、医療側・在宅側で意見交換をする機会が少ない。
- ・介護支援専門員が本人の意向を把握し、連携ツールを活用して情報共有できるよう、地域連携連絡票に本人が大切にしてきた事や“思い”を込めるなど、質を高める必要がある。

〈次回部会への提案〉

- ・医療側と在宅側の双方の意見交換ができる機会を設け、相互理解や関係づくりを支援する。
- ・円滑な入退院支援が行えるよう連携ツールの理解及び活用を含めた研修会を継続し、それを広げていけるような仕組みづくりを検討する。

② 対人援助スキルアップ部会

〈取組評価〉

- ・部会内で「パーソン・センタード・ケア」の理解を深め、支援で大切にしたいことを確認できる研修ツールを作成することができた。
- ・研修ツールを用いて職能団体や職域で研修会を開催し、日頃の支援について振り返ってもらうことができた。

〈課題〉

- ・この取組は対人支援を行っていく上で重要な要素で、繰り返し振り返るべき内容である。
- ・その人らしい生活を支えるために、家族を含め支援に関わる人が同じ目線で支援を行っていく必要がある。

〈次期部会への提案〉

- ・研修会の継続や受講しやすい体制について検討する。
- ・更なる周知啓発に関する取組や支援者がチームとして機能していくにはどうした

らよいか検討する。

③ 急変時対応部会

〈取組評価〉

- ・救急医療情報キットの記入内容を整理し内容を統一することができた。
- ・急変時の対応で、介護支援専門員に負担が集中している実態が見えたことから、日頃からの本人の意向確認、及び関係機関との連携の重要性について周知することを目的とした介護支援専門員を対象にした研修会を開催することができた。

〈課題〉

- ・急変時に備え、本人の具体的な意向や医療情報をチームで共有する必要がある。

〈次期部会への提案〉

- ・本人や家族が急変時に備えた意向を表出できるよう、支援者に対して意思決定支援に関する啓発が必要である。
- ・急変時において本人の意向に沿った適切な支援をチームで行っていくためにはどうしたらよいか検討する。
- ・実態調査結果からまずはケアマネジャーを対象に研修会を行うことは良いと思うが、医療機関側からみた課題等もあるため、今後検討していく必要がある。

④ 市民啓発部会

〈取組評価〉

- ・「市民が、思っていることや大切にしたいことを考える」ためのきっかけ作りの一つのツールとして、リーフレットを作成することができた。
- ・各委員がそれぞれの専門職の立場での効果的なリーフレットの活用や配布方法について考え、配布を行った。

〈課題〉

- ・リーフレットを作成・配布はしたが、まだ活用は十分に広まっていない。
- ・一般市民に向けたアンケート結果から、「人生会議」について知っている市民が約2割であり、市民が自身の考えを持ち、家族と専門職に共有できる状態にまでは至

っていない。

- ・市民が、人生の最終段階の暮らしや看取りの実際を知らないために、具体的な望む生活のイメージが持っていない。

〈次期部会への提案〉

- ・作成したリーフレットを市民向け講座や各職能団体での配布を続け、広めていくようにする。
- ・市民が望む生活のイメージをもてるように、必要な取組を検討する。
- ・専門職が本人の意向に沿った支援を行えるように、医療と介護の連携や看取り等に関する知識を深められるとよい。
- ・人生会議をテーマにした講演会等での啓発を継続していく。

①～④各部会からの報告をいただいた後、各副部長からも3年間を振り返っての感想等を述べていただきました。

また、上越地域在宅医療推進センター長の揚石先生からは、多職種連携、本人の意向、情報共有等のキーワードが各部会の報告から出てきたこと自体が成果であり、今後も重要なポイントになるなどのアドバイスをいただきました。

(3) 2/18の協議会と活動報告会について

- ・今回の各部長からの報告に基づき、協議会委員の皆さんと協議し、評価や課題について共有を図るようにするとともに、次期部会への提案の方向性についても意見をいただくことにしました。

また、第2部の活動報告会については各部長から10分程度の発表をしていただいた後、座談会を設け、専門部会委員として活動しての感想や上越地域の医療・介護連携で大切だと思うことなどを話し合ってもらい、有意義な報告会にするべく、準備に取り組むことにしました。

最後に笑顔で記念撮影を行い、閉会しました。